

第2回幼児教委あり方研究部会要旨

・日時 令和2年8月20日午後6時30分より

◇協議事項

1. 第1回目部会で出された質問・意見について（塩川課長補佐説明）

(1) 施設改修・建て替えをした場合の費用

- ① 改修（H25年度検討改修案を基に算出）
- ② 建て替え（H24年度建築池田保育園を参考に算出）

(2) 保小中連携教育について先進地の事例

- ① H24年国立教育政策研究所作成『余裕教室を活用した保育所整備について』より紹介
- ② H30年度視察 杉並区高円寺北子供園の幼保小連携教育の様子紹介

(以下質問・意見、感想)

○ 杉並区高円寺北子供園へ視察に行った部員の感想

- ・一番良いことは、先生同士の交流が日常行われていて、お互いの指導法、子ども理解が共有されていること。
- ・スペースを上手にコンパクトに使っている。
- ・保育園の子どもが校庭で伸び伸び遊ぶことが出来て良い。

教育長 改修・建て替えの費用は、過去の改修案、工事に掛かった費用を基に算出しているが、今後実施するとしたら財源を同様にすることはできるのか。

→ 塩川課長補佐 基金の残高が少ないため、同様に繰り入れることが出来ない。交付税措置も同様には無い。

また改修工事の内容について、築年数が古いのでこれから実施する場合は水道等設備の全面的改修が必要となるが、その費用がH25年の資料から算出できなかつたので入れていない。1千万単位で掛かると見込まれる。

秋山部員 H25年度当時改修案を出したのに実施できなかったのは何故か。

→ 塩川課長補佐 H25年3月に池田保育園を新築(池田北、池田南統合)した後、H26年度に会染保育園は耐震補強工事と合わせ大規模改修を実施する予定であったが、池田保育園は新築したのに、何故会染は新築では無いのかと町議会から反対にあう。

それを受け、H25年度に保護者会で在園児の保護者向けにアンケートを行い、施設は新築せず大規模改修で良いと大半の保護者に納得いただいていた。保護者会主催保護者説明会(H26.1)で、出席された町議会議員から猛反対があり結論が出なかった。そこで保護者から、結論を出すのに時間がかかるのなら耐震補強工事だけでも先に行なって欲しいと要望が出され、H26年度にその工事のみ行った。(後日補足 平成26年度会染保育園耐震補強改修工事 43,302千円)

H27年度会染保育園建設検討委員会を開始。12月に建て替えを望む内容で町長へ答申。(答申書の文面を追加資料として提出)しかし実施には至らず、現在まで急速

な少子化と財源の問題で、施設を今後どうしていくか結論が出ていない。

→ 教育長及び和澤部員から財源が厳しい状況を説明。

2. 検討の方向性について（教育長説明）

（以下質問・意見、感想）

(1) 会染保育園の施設老朽化への対策について

荻窪部員 教育大綱に「保小中 15 年プラン」を掲げて進めている中で、この提案は保と小の連携が出来良いと思う。その後小と中の連携が進むことも期待する。県内にはこのような事例は無いかな。

→教育長 私立ではあるが、公立では無いと思う。

荻窪部員 前回伊那市高遠の自然保育に重点を置いて保育を行っているという事例を紹介したが、（補足：この子どもを育てる良い環境を求めて移住者が増えるという例の通り、今回の提案は魅力があるので）このような良い環境で子どもを育てたいと希望する保護者が増えるのではないかな。コロナウイルス感染症流行により地方に移住したい機運が高まっているし、良い機会であると思う。

教育長 この部会で今後視察をしたいと考えている、軽井沢町の風越学園を先日見学した。3歳から中学生まで12年間の保小中混在校である。令和2年4月開校した。児童生徒196人が学んでいる。先日開かれた来年度入学・入園説明会には親子700組が参加した。コロナウイルス感染症への影響もあり、教育を目的とした移住は増えると見込まれる。

→ 赤羽部長 移住の際父だけ単身赴任となるのが教育上気にかかる。

赤羽部長 この部会では会染保育園の新築、改修は考えず小学校への併設を基本に考えていく、ということを確認させていただく。

赤羽部長 小学校の空き教室を設けられるか各小学校から説明させていただく。会染小学校は各学年2学級設けられるように部屋が作られている。現在2学級ある学年は2年生だけである。特別支援学級として使用している部屋もあるため、空き教室として利用出来る可能性がある部屋は1部屋である。

但し来年度特別支援学級入級希望の方が多く、自・情障学級が増える可能性があり、空き教室を設けられるか未定である。その入級希望の方が全員入級されるかは、インクルーシブ教育（補足説明：障がいのある人がその能力を可能な限り発達させることができる教育の場を提供して、障がいのある人とない人とがともに学ぶ仕組み）も大事な視点なので、希望通りが良いということでも無い。

現在2学級ある2年生が卒業した後、一学年1学級より増える見込みは当分無いので、空き教室を2部屋位作ることはできるだろう。

保育園併設で一番可能性があるのは年長のみ受け入れることである。

清水部員（池田小学校校長） 池田小学校に空き教室を設けることが出来る可能性を検討

したが、次の三つの方法と課題が考えられる。

一つ目は、各学級の隣に学習室という部屋があり、国語・算数の際クラスを二つに分け学習室を使い少人数で学んでいる。その部屋の使い方を工夫し、学年を超えて時間割をずらして同じ部屋を使うようにすれば空き教室を用意できる。但しその部屋のスケジュールが一杯となると予測され、時間割の組み方が難しい。

二つ目は、校庭に面した校舎の1階に保健室・図工室・図工準備室があるが、独立した校舎で外への出入りが出来シャッター等で区切りやすく保育園とした場合使いやすいという利点がある。但しその部屋の2階が音楽室でいつも音が聞こえるという難点がある上、現在保健室等として使っている部屋を別に設ける必要がある。

三つ目は施設管理が大変になるという課題が出来、校務の見直しが必要だと考えられる。

また児童人数により学級数が増える可能性があり、空き教室をどの位設けることが出来るか見通しは難しい。

荻窪部員 小学校に併設する保育園には具体案③に池田・会染両方から受け入れ可能とあるが、保護者は住所に関わらず入園希望があると予測されるため、保護者の考えを良く聞いた方が良い。また児童センターは昼間空いているのか。

→ 未就園児が親子で利用している。

荻窪部員 小学校に保育園を併設する場合駐車場も含め保護者の送り迎えの利便性を考える必要がある。未就園児の利用を池田児童センターのみとし、会染児童センターを会染小学校に併設する保育園児の送迎時に利用する建物とし、池田・会染両方から受け入れ可能とし送迎をスムーズにするよう図ればどうか。

園児は登園後会染小学校に移れば良い。また小学校放課後は児童クラブとして利用すれば良いと思う。

秋山部員 具体案が3つ出され、いろいろな考え方ができるようになった。併設する保育園児の年齢を下げると改修する内容も増える。トイレや動線など。それを検討する必要がある。

池田・会染小学校両方に保育園を併設するならばその分費用も余計に掛かる。

また会染小学校は空き教室を設けることが難しいと改めてわかった。

赤羽部長 教育長はこの案を提案するにあたり、小学校の学区はどのように考えているのか。

教育長 具体案を3つあげたのは、いろんな方向から考える可能性を広げるため、最終的には良い方向にミックスし一つの案に固まれば良いと思う。

町全体の子ども達が小学校接続をスムーズに行えるようにしたいと考えている。両方の小学校に保育園を併設し、どちらに行くか選べるようにしたい。

個人としては将来的に小学校の学区をはずし、学校選択制を導入したいと考えてい

る。小学校学区の選択制は次の段階で良いと考え、あえて今回の案に入れていない。

小学校の壁が無くなり、どちらに行くか自由に選べるようにしたい。

森泉部員 保小中連携の上では地区内での子ども同士のつながりは大事であり、池田・会染小学校両方に作るという点は良いと思う。両方受け入れ可能という点も大事である。

具体案①の年長のみ受け入れるという案が良いと思う。3歳児や3歳未満児は生活リズムが大事であり保育園で過ごす方が良いではないか。希望が増えている一時保育もスムーズにするには保育園で行った方が良い。

教育長 総合的に考え、5歳児のみが小学校併設の保育園で受け入れる方が良いと思う。施設改修も左程必要ないだろうし、次年度小学校入学を控え、より現実的であると思う。

池田小学校にも保育園を併設すればその分池田保育園の受け入れ可能人数に余裕が出来る。年中以下の子ども達が全て池田保育園で受け入れ可能となるのではないか。

会染保育園施設老朽化への対応が待ったなしの状況の中で年長児は小学校に移ることが一番良いと思う。

笠井池田保育園長 保育士皆に意見を聞いた訳ではないが、保育園にとって年長はとても大きな意義のある年齢である。その学年がいなくなることはとても大きな打撃がありダメージが大きい。また送迎に関して保護者にとってはとても負担になる。朝忙しい中年長児を小学校に送り、下の子を保育園に送ることはとても大変ではないか。

また会染保育園年中以下を池田保育園で保育することは現状では部屋数が足りず無理である。そのためには施設の増設が必要となる。また子どもの数が定員一杯まで増加することは、保育士の目が行き届きにくくなる上保育士の負担が増える。

丸山会染保育園長 年長児は保育園の中で自分達が一番年上となったことを自覚することで大きく成長する。費用面で年長児一学年のみが小学校に移動する案が良いとされることはわかるし、小学校との連携、小1プロブレムの解消という面でも良いだろうが、年長児にとっては小学校に移動すると年下となるので年長児としての自覚、成長という面ではマイナスになるのではないかと懸念される。

小学校の施設も遊具等年長児に合った物を用意し、施設も改修が必要ではないか。

この案について保育の場が変更となった場合実際に対応していく下の世代の保育士にも意見を聞いていただきたい。

笠井池田保育園長 年長児は学校に移行していくためだけの一年ではない。保育園では子どもの主体性をとても大事にしており年長児が居てこそ子ども主体の活動が上手く進んでいるのに、大人の都合で移動させて良いのかとの思いがある。

秋山部員 資料にある小学校と保育園が連携した例には下の年齢の園児達がどのように過ごしているかの記載が無い。その様子を知りたいので調べて欲しい。

荒井部員 今後少子化はどこの地域でもあると思うので、保小連携というコンパクトな形が主流になっていくのか、また池田町で実施することによりその園に入れたいため

に移住して来る方が増える可能性もあるので、施設も園児増に対応出来る設備にした方が良い。また小学校と共有出来る施設は活用し、年中・年長共に小学校に隣接した施設で過ごせるようにすればどうか。駐車場も必要となる。

和澤部員 教室について、小学生の人数が減っているのもっと空き教室が増えるかと思えばそれほど空かないのは何故か。今後園児が増える可能性もあるし、もっと空き教室が増えれば多くの年齢の保育園児が使えることが可能となるのだが。

教育長 通常学級の数は減っているが、特別支援学級が増えているので空き教室を設けることが出来ない。受け入れ側の小学校でも特別支援学級のあり方について考える必要もある。

また将来的に年少から年長まで小学校に併設して過ごすことを目標とするのであれば、またそれをこの部会の最終目標とするか議論も必要であるが、小学校と併設した建物が必要となり、そうするために段階的にどうしていくか議論を進めていくという方向性もあるのではないか。

赤羽部員 参考までに過去各学年2学級、計12学級あった頃は特別支援学級が無かった。

現在通常学級が7クラス、特別支援学級が4なので、1クラスしか空かない状況である。

秋山部員 特別支援学級では少人数で教室を一つ使っているのも単純に考えると区切って使えばと考えることもあるかと思うが、特別支援学級で過ごす児童は少人数で広く静かな所で学習した方が勉強に集中出来る傾向が強いので、難しい。

丸山高徳学校支援コーディネーター 夢を語ってきたのに結局財源次第という所があり、その打開策として池田北保育園を売るなど方法が無いかと思う。

また重要な視点として、施設改善だけではなく保育士増も保育の質を上げるために大切なので、そのために財源を確保することを望みたい。

参考として池田町出身の矢口^{とおる}亭先生が信州大学附属長野小学校で5歳児の教育に取り組みされていた。年長児の学年を0学年として早期教育を数年進められた。最先端な取り組みであった。机の高さ、施設等詳細な点まで考えながら素晴らしい実践をされているので紹介する。

本日の検討では保護者負担という面から2カ所に子どもを送っていくことは難しく実施不可能ではないか。理想として池田会染両小学校に併設して、年少から年長までの3年間保育できる場を作ることが利用である。1もしくは2学年だけ切り離すことは保育をする上で難しい。少子化対策の切り札となり得る良い案なので、財源確保にぜひ努められたい。

教育長 次回は小学校に併設する保育園の例を1学年もしくは、複数学年それぞれメリットデメリットを調べて示したい。

赤羽部長 幼児教育を検討する上で保育園側、学校側と価値が異なりその葛藤が議論上

大切なことであるので、このような協議はとても重要である。

◇ その他

第3回部会 10月12日（水）午後6時30分より

内容：本日出された課題に関する資料を提示。

定例教育委員会及び議会に検討内容を示すので、いただいた意見を報告する。